校内研究の充実

～ 研究授業　7つの視点 ～

平成２４年３月

宮城県大河原教育事務所

はじめに

平成２３年３月１１日の東日本大震災発生から１年が経ちました。

教職員の皆様には発生当日はもちろんのこと，その後の対応におきましても，子どもたちのために心のケアを含め，ご尽力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

震災からの復興と共に，私たちがなすべきことは，子どもたちの確かな学びを支えていくことであります。そのためには，子どもたちの学力向上と教員の教科指導力の向上が不可欠であると考えます。

子どもを取り巻く社会が変化する中で，私たちは不易の部分を大切にしながらも，様々な教育課題に対応した実践的な指導力の向上を目指して，切磋琢磨していかなければなりません。

今年度は，平成２０年３月告示の学習指導要領が小学校で全面実施，次年度は中学校でも全面実施となる節目の時期です。

また，宮城県では，宮城県教育振興基本計画における教育施策の基本方向として，学ぶ力と自立する力の育成を掲げました。夢と志を持ち，その実現に向けて自ら考え行動し，社会を生き抜く人間を育むことを目標としています。

管内の各学校におかれましても，これらの理念や趣旨を踏まえ，授業改善やカリキュラム改善に取り組んでいただいています。このような取組こそが，学力向上と指導力向上に確実につながっていくものと考えます。そして，その中心となるのが，組織として取り組む校内研究であると言えます。

本冊子は，今年度の学校訪問を通じて，各校の校内研究の進め方のよい点や課題と感じた点を踏まえながら，研究授業に焦点を当て，学校全体として共有しておきたい事項で構成いたしました。

「わかった」「できた」ときの満足感や達成感。そこには，子どもたちの笑顔と教職員の笑顔があります。本冊子には，そんな思いを込めました。

この「校内研究の充実～研究授業　７つの視点～」を校内研修などにおける資料としてご活用いただき，各校校内研究の活性化の一助となれば幸いに存じます。

平成２４年３月

大河原教育事務所
所長　桂島　　晃

校内研究の充実　～　研究授業　７つの視点　～

もくじ

はじめに

Ⅰ　組織として・・・・研究授業

１	**つ**くろう＊＊＊指導案	まず，何から始めますか？	１
２	**み**んなで＊＊＊事前検討会	何のために　行いますか？	４
３	**き**づこう＊＊＊提供授業	視点を持って　見ていますか？	６
４	**だ**しあおう＊＊＊事後検討会	みんなで　深め合っていますか？	７
５	プラス**１**＊＊＊指導案例		
	小学校国語	どのように　構想しますか？	９
	中学校数学	どう　検証しますか？	１５
６	プラス**２**＊＊＊学習評価	指導と評価の一体化を図っていますか？	２１
７	プラス**３**＊＊＊学習規律	いつも心の中にありますか？	２４

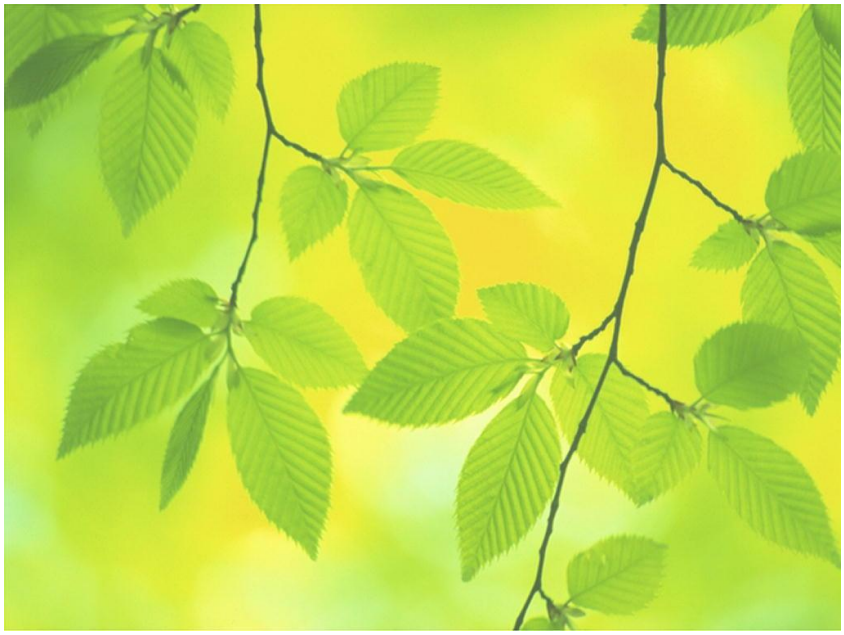
Ⅱ　みやぎとして・・・・宮城県の教育施策

１	学校教育の重点	２５
２	学校改善支援プラン	
３	みやぎの教員に求められる資質能力	

主な参考文献　２６

Ⅰ　組織として・・・

研究授業



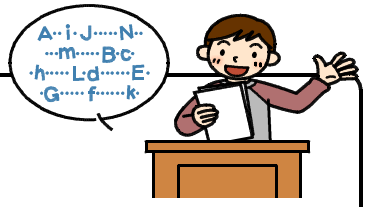
つくろう＊＊＊指導案

まず，何から始めますか？

スタートラインは学習指導要領

◇ 授業に臨む前に**学習指導要領及び解説書を読み込む**ことは必須の条件！
◇ 学習指導要領及び解説書を読んで，**教科で指導すべき内容や目標をしっかり把握！**

「よい授業」を支えているものは？



◇ 授業者が**教材を深く解釈**していること。（十分な教材研究）
◇ 授業者が児童生徒の**実態をしっかりと把握**していること。

教材研究

〇教材の熟読・徹底的な教材分析
- 教材の内容把握
- 学習指導要領とのつながり
- 教材の特質や価値
- 前後の学年とのつながり
- 指導内容，指導事項の明確化
（学ばせるべきことの絞り込み）
等々

〇指導方法の研究
- 発問，活動場面，授業形態，
板書計画，プリント資料等

実態把握

〇指導内容やねらいに照らして，
- 何を知っていて
何を知らないか
- 何ができていて
何ができていないか
- そのことに対する
興味・関心の度合い

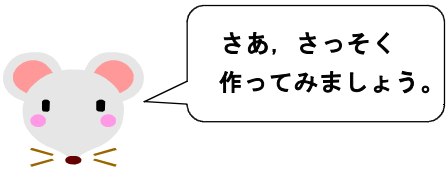
〇授業に生きる的確な実態把握を！

これらを基に ➡ **指導案の作成**

単元計画で力尽きてしまわないようにね。

◇ 学習指導案は，授業設計図である。→**※プラス１国語科指導案参照**
➡ **授業の目的，授業者の意図，授業の流れ**が分かるように書く。
◇ 学習指導案は，話合いの土台になるものである。→**※プラス１数学科指導案参照**
➡ 何を身に付けさせるために，どんな手立てを講じたのかを明確に書く。
（**研究の仮説や視点との関連**が分かるように書く。）
◇ 学習指導案は，本時指導過程がメイン。
➡ 発問・指示・助言，予想される児童生徒の反応等を**具体的に**書く。

一般的な指導案（細案）の形式例と書き方のポイント



〇〇科学習指導案

平成〇年〇月〇日（〇）第〇校時
第〇学年〇組　　（於：〇〇教室）
指導者　教諭　〇　〇　　〇　〇

1　単元（題材）名

☞・指導計画に基づいて単元（題材）名を記述する。**出典**も明らかにする。

2　単元（題材）について

(1) 単元（題材）観

☞・学習指導要領との関連，単元の捉え方や内容，単元を取り上げる意義，単元のねらい，単元の構成などについて記述する。

(2) 児童（生徒）観

☞・一般的なものではなく，その**単元に関わる児童（生徒）の実態**について記述する。
・単元で身に付けさせたい力に対して，今，どんな状況にあるのかを記述する。
（単元に関わる既習事項の理解度，定着度，意識面等について客観的に捉えた事実もデータ化して記載するとよい。）

(3) 指導観

☞・単元観，指導観を踏まえ，**指導や支援の手立て**，**学習形態や発問の工夫など**を記述する。
・発展，補充の指導についても記述する。

共通理解をして
授業に臨みましょう。

3　校内研究との関わり

☞・校内共同研究である**研究主題との関連**を明らかにする。
・**研究仮説**や**研究の視点**に照らし合わせて講じる**具体的な手立て**や**検証方法**等を記述する。

4　単元の目標（指導目標）

☞・この単元の指導を通して**どのような力を身に付けさせたいのか**を明らかにする。
・評価の観点を踏まえて，具体的に記述する。
・「指導目標」とした場合には，**指導者の立場に立って記述**する。

5　単元の評価規準

☞・学習指導要領の目標と内容及び児童生徒の実態等を踏まえて設定する。
・**観点別**に評価規準を設定する。（「おおむね満足できる」状況）

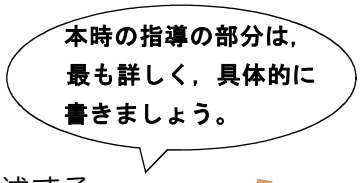
6　指導と評価の計画

☞・単元全体の流れや評価のバランスをイメージして計画を立てる。
・指導の見通しが持てるよう，可能な限り，１単位時間ごとの計画を立てる。
・**ねらいや学習内容**，**具体の評価規準**，**評価方法**を１単位時間ごとに明記する。
・１単位時間における**評価を精選して確実に評価**できるようにする。（１～２観点）
・１単位時間ごとの評価規準は，より**具体的な児童生徒の姿**で表す。
・評価した結果を**記録に残す場面**を捉えておく。

7　本時の指導

(1) 題材名（教材名）

☞・教科によって文言を使い分ける。



(2) 目標（ねらい）

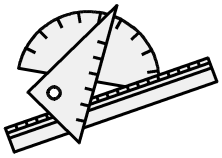
☞・**本時の学習活動を通して身に付けさせたい力**について記述する。
・単元の目標を分析して，**より具体的な目標**とする。
・６の「指導と評価の計画」のねらいと一致させる。
・原則として，**児童生徒の立場で**記述する。（例：～できる。）

(3) 指導に当たって

☞・校内研究との関連で示した手立てや検証方法のうち，本時の指導に関わりのあるものについて，**より具体的に**示す。

(4) 準備物

☞・教師側と児童生徒側の両方について記述する。



(5) 指導過程

☞・段階，時間配分，主な学習活動，発問や指示及び予想される児童生徒の反応，指導上の留意点及び支援の工夫（具体的に），評価規準・評価方法等について記述する。
・研究の仮説や視点，手立て等も参観者に分かるように指導過程上に位置付ける。
・教師の支援や指示については，予想される児童生徒の反応と対応した形で記述する。
（**指導と評価の一体化を意識**）

(6) 本時の評価　**（※ (3)の次に「本時の評価」が入る場合もあります。）**

☞・６の「指導と評価の計画」に記載した本時分と同じ評価規準・評価方法を記述する。
・**「努力を要する」と判断される児童生徒への支援の手立て**も記述する。
・できれば，「十分満足できる」と判断される状況も押さえておく。

(7) 板書計画

☞・「めあて」から始まり，「まとめ」で終わるような**構造化された板書**を心がける。
・**板書計画を考えること＝授業の流れを考えること**

※　その他，資料や座席表を付ける場合もあります。

具体的なことについては，この後に続くページを参考にしてくださいね。

児童生徒の実態を捉えるとともに，学習指導要領・解説書の読込みや教材研究を十分に行って，児童生徒の姿及び授業の流れをいかに具体的に捉えるかが大切です。

みんなで＊＊＊事前検討会

何のために　行いますか？

研究授業の１週間～数日前を目安に！

①授業ポイントの説明　→　②模擬授業　→　③事前検討会　（例）

模擬授業（例）

目的：指導過程の吟味
手立ての吟味

①授業ポイントの説明

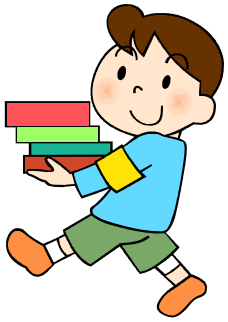
授業者：**本時のねらい，「校内研究に関する授業づくりの主な視点」**（手立ての工夫，提案事項など）を提示する。

・自分の考えをノートに記述し，ペアで伝え合う場を設定する。
・交流したことを基に自分の考えを見直させる。

②模擬授業

授業者：**中心となる部分**を20～30分程度で**本番同様に**行う。

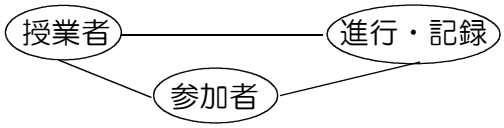
参加者：「発問や学習課題，研究仮説や研究視点からの手立て」に対する**児童生徒の反応を想定した発言や学習活動**を心がける。



◎例えば，「思考力・表現力を高める言語活動の充実」を主な視点とした場合，その具体の手立てや本時の提案事項などを簡潔に示す。

◎<u>途中解説等は行わず</u>に進める。

○模擬授業の役割分担例



・児童生徒役A：理解力，思考力，表現力等が高い
・児童生徒役B：当該クラスの標準となる
・児童生徒役C：理解力，思考力，表現力等に課題がある

事前検討会（例）

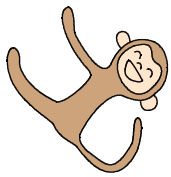
目的：参観のポイントを共通理解
共同で授業をつくる意識化

〇研究仮説・研究視点に基づく手立ては適切であるか。
例えば視点を**「思考力・表現力を高める言語活動の充実」**として考えると・・・・・・

《意見例》
- 言語活動は行われているが，**ねらいを明確に**することが必要。
- 何のために書かせるのか，何のためにペア学習をさせるのか等，子どもに**目的意識を持たせ**たい。
- 書かせる際には，条件等を与えることも必要では。（行数，キーワード，既習事項など）
- ペア学習では，交流のねらいや話合いの観点を示すとよい。
- **交流後が大切**。朱書きで考えを付け加えさせたり，修正させたりすることによって，思考の深まりや広がりを表現させたい。

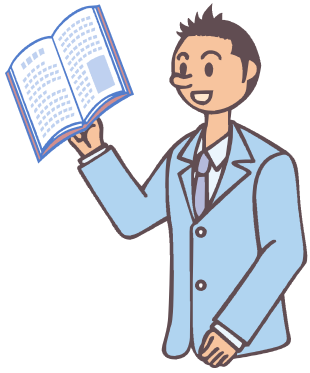
〇個に応じた指導，その他について

《意見例》
- あの発問で何を考えさせたいのか分かりにくい。
- 短く具体的な言葉で発問を吟味する。発問の意図も明確にする。
- 板書事項を精選化すること。
- 児童生徒Ｃに対しては，書く観点を与えるなどの（考えを持たせる）手立てが必要。
- 早くできた児童生徒Ａへの指示があるとよい。



◎（児童生徒の立場に立って）よい点，課題点を**共通理解**するとともに，**改善案（自分ならこうする）などを提案**する。

- 共通理解
- 課題意識
- より質の高い研究授業



☆手元には・・・
〇校内研究概要
〇学習指導要領解説等

〇授業者は様々な意見を検討し，改善できるところを改善してよりよい研究授業を行う。
〇参観者は授業のポイントを共通理解し，研究授業に参加する。

みんなで一つの授業をつくり上げたという一体感を持ち，授業の質を高めるとともに，研究授業参観の視点を共通理解して授業に臨みましょう。

きづこう＊＊＊提供授業

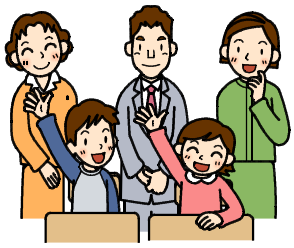
視点を持って見ていますか？

授業を見るポイント

事前検討会で確認し合った授業の「ポイント」を再確認しましょう

視点ごとに色分けした付箋紙や参観シートなどがあると視点に沿った見方ができますね

役割分担（例）
①教師の発言と児童の反応（全体）
②抽出児童の反応（個）
③グループ活動の様子
④ビデオやデジタルカメラによる記録



授業者の視点

○**研究のねらい，授業のねらいが達成されているか，**子どもの姿から見取る。
○**研究の視点を意識して，**授業を進める。
○計画した授業内容を頭に描きながらも，**子どもの反応に柔軟に対応**する。
○**子どもの質問や意見，つまずきを大切にし，**授業展開に生かす。
○本時の**評価規準に基づいて，**学習の状況を子どもの姿から見取っていく。

参観者の視点

○**研究のねらいや，授業のねらいが達成されているかを，**子どもの姿から客観的に見取る。
○**研究の視点に沿って焦点化し，**授業を見ていく。

≪授業を見る視点（例）≫

①授業のねらいが達成されたか。
②個に応じた指導はできていたか。
③子どもの反応に対する評価と，ねらいに近づけるための手立てが適切だったか。
④子どもが生き生きと授業に取り組んでいたか。
⑤授業内容は吟味されていたか。
⑥発問は適切だったか。
⑦考えるための時間は確保されていたか
⑧時間内に予定通り授業が終了したか。

【 事後検討会につなげよう 】

授業を見るときは研究の視点に沿って，授業のねらいが達成されているか子どもの具体の姿から見取っていくことが大切です。

だしあおう＊＊＊事後検討会

みんなで　深め合っていますか？

次の研究授業，日々の授業につなげるために！

例えばワークショップ型で進めるとすれば・・・・・

◎協議の観点
○研究仮説・視点に基づいた手立ての有効性
○それ以外のこと

※発表は視点ごと簡潔に

◎参加者は・・・
客観的な事実を捉えて
①受容し鋭く
②温かくも厳しく
③些細なことも見落とさず

○時間は目安
○グループ数，**進め方等は各学校の実情で工夫**
○「進め方」については事前に配布してもよい
○付箋紙等の書き方についても事前確認

◎ワークショップ型事後検討会（例）

○進め方

1　**進行役説明**　（５分）

2　**授業者自評**【ポイントを絞って簡潔に】（５分）

○本時・研究授業のねらい
○仮説・視点に基づいた手立て及びその成果と課題

3　**グループごとの協議**【一人一人が主体的に】（３０分）

①付箋紙への記入（事前に記述するのも可）
②**記述内容を紹介しながら貼る**。他のメンバーも同様の記述があれば，その付箋紙をその近くに置く。
③**分類した付箋紙ごと枠で囲み，小見出し**を付ける。
④整理・構造化が進んだら，**改善のポイントなどを箇条書き**することも効果的である。

◎グループ協議の手法例
・概念化シート活用
・ＫＪ法
・マトリクス法　　等
※それぞれの組み合わせも可

4　**全体での発表**【グループ協議内容の共有化】（各３分程度）

○各グループでの協議が終わったところで，全体で，シートに書き込まれた**内容を報告**し合う。

5　**まとめ**【成果と課題の共有化】（１０分）

○検討会で明らかになった**成果と課題をまとめる**とともに，（改善への視点を検討したり，模造紙にまとめたりしながら共有化を図るなど工夫し）**今後の研究の方向性を確認**する。

6　**助言**【助言者がいる場合】　（１０分）

◎グループ協議の手法例（それぞれの手法の一例です）

《概念化シート活用》

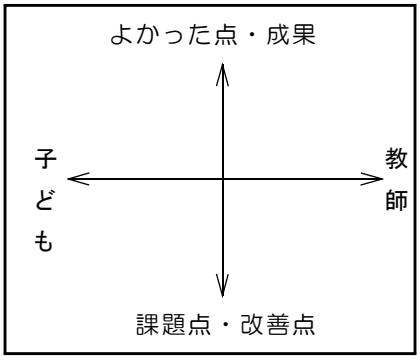
①シートを縦軸，横軸によって４象限に仕切っておく。
例えば，検討する視点について，縦軸に「成果なのか課題なのか」，横軸に「児童にとってどうか教師にとってどうか」を位置付ける。

②４象限にそれぞれ該当すると考えられる内容の付箋紙を貼っていく。

③グルーピングし，小見出しを付けたり，関連付けたりする。

④成果と課題，改善策，今後の方向性などを共有化する。

概念化シート例



《ＫＪ法》

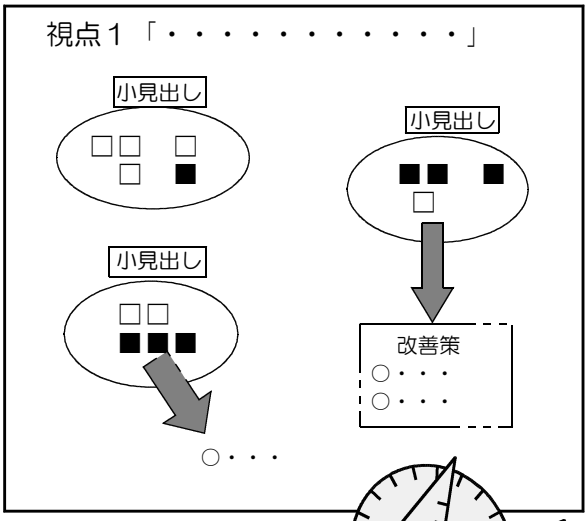
①成果と課題を例えばピンクと青の付箋紙に色分けし，授業記録やメモなどを参考に各自記入する。

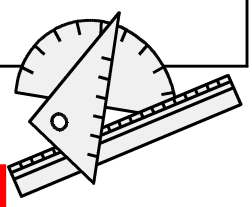
②それぞれの付箋紙を「視点」や「手立て」ごとに貼り付けていく。

③付箋紙をグルーピングしていく。例えば「教師の支援に関するもの（発問，板書，机間指導，教具等）」「児童生徒に関するもの（発言，ノート等への記述，表情，グループでの活動の様子，思考の流れ等」など。

④グルーピングしたものに小見出しを付け，協議の視点を明確にする。成果と課題を視覚化し，共有化する。

ＫＪ法活用の模造紙の例





① 研究授業で明らかになった成果と課題の共通理解を図る。
② 各自が持つ知識や経験，技能を生かし，つなげ合う。
③ 具体的な授業改善案をつくり実践する。
④ 絶えず課題を見付け，改善を図る。
⑤ 互いに力量を高め合う。

学校力・教師力・子どもの学力を高めるために！

成果を共有化するとともに，明らかになった課題については次の研究授業へとリレーし，改善を図ります。
PDCAサイクルにより校内研究を深化させ，学び合う力・同僚性・組織力をを高め，一人一人の授業力の向上を目指します。

プラス１＊＊＊指導案例 どのように　構想しますか？

指導案例　―小学校　２年国語科―

国 語 科 学 習 指 導 案

平成○年○月○日（○）第○校時
第○学年○組　　（於：○○教室）
指導者　教諭　○○ ○○

１　単元名　　むかし話を楽しんで読もう　「かさこじぞう」

学習指導要領の「指導事項」を，言語活動を通して指導するというイメージを持ち，本時の指導を成立させる根拠を明らかにします。

２　単元・教材について

（１）単元観

本単元は学習指導要領第１学年及び第２学年「C 読むこと」における指導事項(1)カ「楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと」を受け，言語活動においては，C(2)ア「本や文章を楽しんだり，想像を広げたりしながら読むこと」，オ「読んだ本について好きなところを紹介する」を取り上げたものである。ここでは，叙述された「場面の様子」及び「登場人物の行動」を中心とした構成要素を基にして，想像を広げながら読む力を高めるとともに，４月，７月の単元で行った音読や好きな場面の絵やあらすじをかく学習を生かしながら，昔話のおもしろさを味わい，他の昔話への読書意欲を高めることをねらいとするものである。

学習の系統を踏まえながら，昔話と他の物語を読み比べたり，会話文を抜き出して音読の仕方を工夫したりするなど，物語の世界を想像する楽しさにつながる教材の特質や魅力を捉えましょう。

本教材は，日本古来の伝統的な文化や風習を背景としながら，その日一日分の糧を分け合い，貧しいけれども互いにいたわり合いながら生きる老夫婦の優しさとその心に応えた地蔵様との交流を通して，真の豊かさを読み手に問いかける物語である。文章の中に織り込まれた人間味あふれる会話文をはじめ，掛け声，擬声語，擬態語等が巧みに用いられていることにより，心情をより豊かに表現する書き手の技法が大きな効果を発揮している。またこれらの特質から，音読や動作化などを通して児童に人物の気持ちや人柄を捉えさせ，昔話ならではの語り口やリズムを十分に味わわせることができると考える。

そして消費文明と言われる「物質的な豊かさ」の中で，日々を何不自由なく暮らしている現代の子どもたちにとっては，必ずしもそうではなかった昔の人々のつましい生き方，あるいは物欲に惑うことなく敬虔に生きる人間の姿と自分自身の姿が対比させられることによって，「心豊かに生きること」の尊さが児童の心に深く響いていくものと考えられる。

本単元においては，音読や朗読会等，実感を伴った学習活動を通して物語の世界や昔の人々の生活に対する関心を高めるとともに，作中に描き出された言葉を手がかりにすることによって，老夫婦の思いや考え，あるいは物語そのものが読み手に伝えていることについて児童自身の知識や経験と合わせながら読みを広げていくことができるものと考える。

（２）　児童観

これまでの指導の経緯を紹介しながら，本単元及び教材（「読むこと」「物語」）等に関する児童の興味・関心や，理解等の度合いについての状況を示します。

―　諸調査または諸検査のデータ（省略）―

本学級の児童は全般的に，授業における基本的な学習習慣は確立しており，問いかけや課題に対して素直な反応を示すことができる。また，１学年時より「おはなしノート」や「この本だいすき」など，「読む，書く，話す・聞く」の連動を図った日常的な言語活動の設定と，それらの成果を授業における学習活動に生かす機会を設けてきたことから，子どもたちの感覚の中にも読んだり聞いたりしたことを基に書いたり話したりすることの循環が円滑になされ，言語を操作する能力がある程度定着してきたものと考えられる。

しかし意識調査の①（以下②～もデータ省略）から，自分の考えや思いを思い描いてはいても，「人の前では恥ずかしい」「どきどきしてうまく話せない」といった理由を述べている児童が多いことが分かる。反面，意識調査③では「おはなしカード」や「絵ことばシート（自作の絵と説明文）」を使いながら話したときは，「楽しい」と答えた児童が数名見られ，支援的な補助教具の効果がある程度見られたことが分かる。

日常の観察，諸検査または調査（意識，学力等）等，客観的な数値結果から分かる児童の姿やその変容ぶりについて押さえます。①，②，③・・・

また，昨年度実施した標準学力検査の結果④によると，国語においては「文章を読み取る力」が全国比で劣っている領域であり，「読むこと」に必要な根拠（手がかり）となる言葉に立ち止まり，そこから自分の読みを広げていく過程に主な課題が見受けられる。　　**―以下省略―**

「かさこじぞう」の学習での音読や手がかりを基にした読み取りを通して，単元のねらいを実現するための**言語活動設定の理由**を述べるなど，児童に付けたい力を明確にした学習活動や指導の意図について触れます。

（３）指導観

叙述されている人物や事物，生活や背景等の描写をはじめ，構成，会話文，掛け声，擬声語や擬態語等，物語の書かれ方も手がかりにして，登場人物の気持ちや人柄，場面の様子などを読み取らせることに指導の主眼を置く。特に児童の主体的な思考・判断を促すため，発問に対応する根拠を，書かれている言葉の中から必要な情報として取り出させ，児童自身の言語表現の起点となるよう意図して指導に当たりたい。また，貧しさの中でも思いやりの心を失わない老夫婦の人となりに気付かせ，自分なりの感想を持たせたりそれぞれの読みを交流させたりしていくことによって，物語文の読み方，味わい方の習得も含め，確かな読みの力を育むことができるよう働きかけていきたい。

これらのことを受け，朗読会や紙芝居発表会等，児童それぞれの読みを生かした言語活動を設けることによって，自分の読みを相手に伝えようと表現する意欲を喚起し，読みを発信する場面の充実を図っていく。また，文意に応じた音読の仕方を工夫することや，授業以外の様々な機会を捉え，民話や絵本を数多く紹介しながらの「読み聞かせ」を併行するとともに，本学年児童による下級生への「読み聞かせ」の機会も設けるなど，多様な学習活動を取り入れることによって目的意識を持った主体的な読み手が育まれるよう努めたい。

３　校内研究との関わり　　―　**プラス１（P. 16）参照**（数学科指導案例）―

４　単元の目標

（１）場面の様子や人物の気持ちを想像しながら昔話のおもしろさを味わって読むことができる。
（２）音読の工夫をして朗読会や紙芝居などで表現することができる。

５　単元の評価規準

【関心・意欲・態度】
昔話の読み聞かせを楽しんで聞き，今後の学習に興味を持って取り組もうとしている。
【読むこと】
人物の様子や気持ち，場面の様子について想像しながら読み取り，読み取ったことが聞き手に伝わるように，叙述の内容や仕方に注意して音読の工夫をしている。　　**―以下省略―**

６　指導と評価の計画　　―　**プラス２（P. 21）参照**（学習評価）―

７　本時の指導

校内研究の趣旨を受けた指導の視点や手立てなど，本時においての研究の有効性について検証する観点を持ちましょう。

（１）教材名　　**かさこじぞう**
（２）目標　　じいさまのしたことや様子から，じいさまの気持ちを読み取ることができる。
（３）指導に当たって

導入時の指導：特に物語文では，前時の余韻や想像した世界が次時の導入につながるよう工夫することによって，本時の学習活動を通して目指したいこと（ねらい等）をはっきり伝えましょう。

展開時の指導：「じいさまの気持ち」について，考えを深めさせたり交流させたりする上で**最もふさわしい言語活動**をイメージします。
　そこでは，手がかりとなる言葉から読み解かせていく発問を繰り出したいものです。目に留めた言葉を子ども自身の言葉で肉付けし，想像したことを説明する力の育ちをねらって，「〇〇から分かることは？」，「〇〇と〇〇を比べて考えよう！」 など，**何のために（目的）どう仕掛ける（意図）発問，指示なのか**，子どもの目線から吟味するとよいでしょう。

※読む→書く(個人思考)→話す・聞く（交流）のサイクル

（４）準備物　　手がかりカード　かさ　手ぬぐい　ＣＤ（BGM or 効果音）

（５）指導過程　　―構想のポイント―

※展開を構想するポイントのみ記述しているため，**一般的な指導過程の様式とは異なります。**

展開	学習活動・教師の働きかけ（留意しておきたいこと）	チェックポイント！
導入 学ぶ意欲の引き出し シンプルに，的確に！	*◎感動からはじまる授業づくりを！！* 主発問：例 **「手がかり（根拠）を見つけて，じいさまのじぞうさまへの気持ちを想像しましょう。」** 音楽や吹雪等の効果音を，音読や動作化の背景に流して，想像の世界を広げる雰囲気をつくっても楽しいですね。 補助発問：例 **「売れ残ったかさを持って帰る，じいさまの気持ちを思い出してみましょう。**（前時の想起）**」** ばあさま ⟷ じいさま 正 月 も ち ⟷ か さ *言葉と言葉の関わりを大切に！*	今日の学習をイメージする大切なひとときです。好奇心をくすぐったり，挑戦したくなったりするような発問だといいわね！ ・本時のねらいと，課題解決的な学習活動の見通しをはっきり伝える。
展開 思考力・判断力	*◎「読むこと」の指導事項を踏まえた，ねらいに迫る言語活動と発問の計画* 発問：例 **「じいさまの気持ちを読み取るとき，大切にしたい言葉（手がかり）はどこですか。」** キーワード（サイドライン等）はできるだけ短く，がポイントだね！ そこから広げられた想像を自分の言葉をたくさん使って書く，大切な言語活動ですね！ 発問：例 **「大切にしたいと思った言葉について説明ししましょう。また，そこから分かるじいさまの気持ち考えて，ノート（ワークシート等）に書きましょう。」**	**指導と評価の一体化** ・支援を要する児童の具体の姿(C)及び支援の手立てを考える。 ・評価方法の確認 **必要な情報の取出し** ・見付けた言葉がより光るようにする。 ・読み取ったことを表現する余白づくりを心がける。 **個人思考の場づくり** ・見付けた言葉を，行動，様子，会話，背景などに

一貫した言語活動（想像を広げながら読む）

・表現力の育成

思考・判断

＊一人で考える時間・・・を大切に。

先生もお話は
我慢です！！

補助発問：例 **「グループ内で手がかりを出し合い，じいさまの気持ちをよく表している言葉をさらにいくつか選びましょう。」** ※言葉を絞り込ませる。（思考・判断）

書かれている言葉を大切にしながら文章を読むと，本に書かれていないいろいろなことが想像できます。本を読むことが楽しくなるわね。

表現

補助発問：別例 **「手がかりとして見付けた言葉，かきおとす，かさ，手ぬぐい からどんなことが分かりますか。またその言葉からじぞうさまに対するじいさまのどんな気持ちが想像できますか。」**

※かさや手ぬぐいがどんなものであるかを思い返させる。

手がかりが見つけられず，話し合いがなかなか進まないグループもあるでしょう。
課題解決のための手順を徐々に示すなど，助け船となる発問も用意しておくといいですね。

思考・判断

指示：例 **「話し合ったことをまとめ，発表しましょう。」**

※読み取った気持ちをじいさまの言葉に直し，本文の中に挿入するなど，音読の仕方を工夫する。

分類させ，児童の考えが散らばらないよう配慮する。
（ノート作りとの関連，思考の整理）

交 流の場づくり

・課題をみんなで共有する時間を持つ。

・話し合う「手順」，「観点（～について）」，「条件（根拠と理由を伝え合う，班の考えを一つにまとめる等）」をはっきりと示す。

表 現の場づくり

・課題の「負荷」と教師による「支援」のバランスを考える。

・思考と判断のプロセスを大切にする
（個人ー集団ー個人）

終結

まとめ　つなぎ

◆本時学習を振り返り，自分の考えを明確に伝えるための条件（筆者への意見，キーワードの活用，交流の振り返り，自分自身との関連等）を提示するなど，次時へのつながり等に配慮します。

指示：例 **「今日の学習を振り返り，『書き方シート（手順・観点・条件等）』を使って自分の考えをまとめましょう。」**

※目に見えない児童の思いや考えを言葉として引き出し，本時の学習活動において思考・判断したことを見取る。

※ノートやワークシート等へのコメント（赤ペン等）を大切にし，個に応じた支援をつないでいく。

道徳的な価値及び主題との関連

・家族愛，思いやり，謙虚，温かい心，感謝 等

学習の成果に対応した指導と評価

学習活動に即した評価

達 成 感の引き出し

《指導過程例》

【○・・教師の働きかけ，　※・・指導上の留意点，　「・」・・予想される児童の反応】

展開	学　習　活　動	教師の働きかけと予想される児童の反応	形態	評価規準・その他
導入（8分）	1 本時の学習範囲を確認し，前時までのじいさまの気持ちを想起する。	○「売れ残ったかさを持って帰る，じいさまの気持ちを思い出してみましょう。」 ※ばあさま・じいさま・正月等の$\boxed{\text{カード}}$を提示してそれぞれの関わりを想像しやすいようにする。 ・正月の餅を買うために，ばあさまと一生懸命に編んだのに残念だ。 ・ばあさま，がっかりするだろうなあ。	一斉	
	2 本時学習場面を音読する。	○「とんぼりとんぼり」の場面から範読する。 ・背景，様子，つぶやき（会話文）とじいさまの気持ちが重なり合って想像が広がる。 ○一斉読みと指名読みを交互につなぐ。 ・他の子どもが読む様子に注目して，自分の読み方に表情を付ける。 ※時間があれば，つぶやき（「　」）と，それ以外の部分に分けた役割読みを取り入れる。	一斉 個	
	3 本時のめあてと学習内容の確認する。	手がかりを見つけて，じいさまのじぞうさまへの気持ちを想像しましょう。		
展開（32分）	4 文章中に書かれている言葉から，じいさまの気持ちを想像する。	○「じいさまの気持ちを読み取るとき，<u>大切にしたい言葉</u>はどこですか。」 ・（売りものの）かさ　・かきおとし ・ふきっさらし　・手ぬぐい　・やっと ※じっくり文章に向き合わせ，できるだけ短くサイドラインを引かせる。 ※様子や行動等に分けて目を向けさせる。 ※早く終わった児童には，選んだ言葉の中から特に気持ちを表していると思う言葉をいくつか選ばせておく。 ○「大切にしたいと思った言葉について説明しましょう。また，そこから分かるじいさまの気持ちを考えてノート（ワークシート等）に書きましょう。」 ・（ふきっさらし）→ふぶきが当たってさぞさむいことだろう，何かしてあげたい。 ・（かさ）→じぞうさまのためになるならよかった。ばあさんもきっとよろこんでくれるだろう。 ・（手ぬぐい）→自分もさむいけれど，それよりもじぞうさまの方がかわいそうだ。 ※①<u>着目した言葉</u>，②<u>その言葉について分かること</u>，③<u>じいさまの気持ちの説明</u>（②を理由としながら）のそれぞれを，ノート（ワークシート等）に整理して書くよう促す。	個 個	【読むこと】 言葉を手がかりにしながら気持ちを想像し，じいさまの気持ちを読み取っている。 （発言，ノート，ワークシート） 《C児童への支援》 他の児童から出された言葉を例に挙げ，全員で読み取る過程を経ることで読み方を理解させる。 《C児童への支援》 じいさまのしたこと（行動）の中から，手がかりを見付けさせる。

	5 交流し合って読みを深める。	○「みなさんが手がかりとして見付けた言葉，かきおとす，かさ，手ぬぐい からどんなことが分かりますか。またその言葉から，じぞうさまに対するじいさまのどんな気持ちが想像できますか。」 ※自分のノート等を基にして順序よく考えを出し合うようにさせる。 ※「じぞうさまにかさをあげてもいいのですか。」「なにをするためのかさですか。」などと投げかけ，揺さぶる。 ・「かきおとす」は「おとす」より一生けんめいな感じがする。だからじぞうさまをとても守りたいと思っている。 ・つぎはぎの手ぬぐいだから，とても大切に使ってきたことが分かる。でもそのことより，じぞうさまを温めようとした気持ちが強かった。 ※手がかりとなる言葉をそれぞれカード（付箋）に書いて出し合わせる。 ※はじめに手がかりとした言葉そのものについて説明し合わせ，次にその内容を基にした気持ちの読み取りにつながる流れを作らせる。 ○「話し合ったことをまとめ，発表しましょう。」	班 一斉	
終結（5分）	6 本時を振り返り，自分の考えを持つ。	○本時の学習内容を振り返り，じいさまの気持ちを考えながら読ませる。 ○「今日の学習を振り返り，自分の考えをまとめましょう。」 ※『書き方シート（手順・観点・条件等）』を使いながら，筋の通ったまとめ方をさせる。 ※じいさまがじぞうさまにしたことについてどう思うか書かせる。 ※まとめさせる際の支援として，児童が書き進めている文章の途中に「なぜなら」等を入れさせ，考えが深まるよう促す。	一斉 個	【読むこと】 交流し合ったことを通してさらに読みを深め，物語に対して自分の考えを持つことができる。 （音読，ノート，ワークシート，自己評価シート）

（６）本時の評価　―　一般的な指導案の形式例と書き方のポイント（P.2）　参照　―

（７）板書計画　―　プラス１(P.20)参照（数学科指導案例）　―

言語活動をねらいに応じて的確に設定することにより，子どもたちが思考・判断したことを言葉豊かに表現し合う場面が生まれます。
「教科書を」ではなく，「教科書から」学び取らせる授業づくりをイメージしましょう。

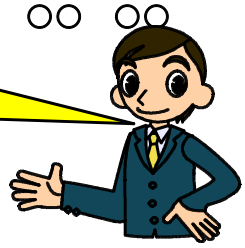
プラス１＊＊＊指導案例

どう検証しますか？

指導案例　－　中学校　２年数学科　－

数 学 科 学 習 指 導 案

平成　年　月　日（　）　校時
場　所　第２学年○組　　教室
指導者　教諭　○○　○○



「単元について」では，学習指導要領のねらいと指導事項，また，これまでの学習内容をふまえ，どのように学習内容が発展していくのかを示します。

１　単元名　「一次関数」

２　単元について

(1)　単元について

本単元は，学習指導要領「Ｃ　関数【第２学年】（１）」に基づいたものであり，「具体的事象の中から二つの数量を取り出し，それらの変化や対応を調べることを通して，一次関数について理解するとともに，関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。」ことをねらいとしている。すなわち，身の周りで一次関数が使われていることに気付くだけでなく，一次関数を使うことで，事象を理解したり合理的に表したりするための実践力を身に付けることをねらうものである。

これまでに，生徒は，文字を用いて様々な量を表し，一次方程式，不等式，連立方程式などを使い問題を解決する方法を学んできた。

一次関数は，グラフを用いて変域を表すことにより，それぞれの解の意味も理解できる総合的な学習内容となっている。第３学年からは，展開や因数分解，平方根，２次方程式，関数ｙ＝ａｘ^2，三平方の定理などの二次式を扱う内容が主であるので，一次関数は，これまでに学んだ一次式の学習の集大成といえる。また，一次関数は気付かずに過ごしてはいるが，身の回りで応用されていることも多く，ぜひとも理解させ，活用する力を付けさせておきたい。

(2)　生徒観

この単元を学習するに当たってレディネスや学習に対する意識がどのくらいあるかを書きます。観察だけでなく，意識調査などを基に客観的にとらえて分析することが大切です。

このクラ　　のクラ
である。　　ロして
生徒か　　生徒
次の調　　に頑

図Ⅰ　数学に関する意識調査結果

１　あなたは数学の学習が好きですか。

好き11%	やや好き50%	あまり好きでない19	嫌い19%

２　数学の勉強は必要だと思いますか。　不必要3%

絶対必要47%	やや必要39%	あまり11

３　数学をこれからも勉強したいと思いますか。

6%	やや思う30%	あまり思わない50%	思わない14%

４　授業では進んで発言していますか。

積極的3%	やや積極的39%	やや消極的44	消極的14

５　数学の家庭学習は必要ですか。　あまり8%

思う42%	少し思う50%

６　数学の家庭での学習はどのくらいですか。

週3回42%	週1回28%	ほとんどしない30%

図Ⅰより，数学の学習が好きな生徒は「やや好き」を加えると６１％に達し，関心は比較的高いといえる。数学を学習することの必要性を感じている生徒は「やや必要」と応えた生徒を含め８６％と，ほとんどの生徒が数学を学習する必要性を感じている。しかし，「これからも数学を勉強していきたい」と考えている生徒は，３６％と数学の学習の必要性を感じている生徒の半数以下である。意識調査の自由記述から，その一つの理由として，「数学を学習しても役に立たない」と感じている生徒が多い実態がうかがえる。また，授業中積極的に発言し，理解を確認しようとする生徒も約４０％程度で，数学

の学習の必要性を感じている生徒の半数程度はいるものの，どちらかというと受け身の生徒が多い。自由記述では，「自分の考えが間違っていたら恥ずかしい」，「発表が苦手」など，発表することに抵抗を感じている生徒が多い実態がある。さらに，数学の家庭学習に関しては，９２％もの生徒が必要性を感じている。しかし，実際は「週１回程度学習する」，「ほとんどしない」を合わせて，５８％という結果になっている。自由記述からは「疲れて寝てしまう」，「他のことを優先してしまう」など，頑張ってやろうという意欲に欠ける面が見られる。また，既習事項の定着状況図Ⅱからも分かるように，変化の割合の意味や直線の式を求めることについては，まだ完全に定着しているとは言い難い。既習事項を活用することによって課題解決が図られることを実感的に理解させ，確実に身に付けようとする意欲の喚起が必要である。

図Ⅱ　既習事項の定着状況

問　　題	正答率
①　一次関数の式と傾き	90%
⑤　変化の割合の意味	63%
⑥　直線の式を求めること	55%

(3)　指導観

以上を踏まえ，導入段階では，これまでの学習内容の定着を図るために，本時の学習に必要となる既習事項の復習を必ず取り入れるようにしていく。また，生徒に授業の見通しを持たせるために１単位時間の学習目標を明示していく。

展開の段階では，まず，個で思考して自力解決する場面を設ける。その際，生徒の様子を見取り，声がけをしたり，ヒントカードを与えたりするなど，適切な支援を図り，数学の授業への集中力や学習に対する意欲を高めさせていく。その後，ペアで考えを伝え合う場面，グループで考えを交流し多様な考え方に気付かせる場面などを意図的に設定し，発表させることによって，学習内容の理解を深めるとともに自己有用感と自信を持たせ，学習に対する意欲を高めさせていく。そのためにも，生徒同士が互いの発表を認め合える雰囲気づくりを心がけ，互いに教え合える関係の構築に努めていく。

「(1) 単元について」と「(2) 生徒観」を踏まえ，具体的に指導や支援の手立て，学習形態や発問の工夫などについて記述します。

まとめの段階では，ノートやワークシートに本時の「めあて」に対する「まとめ」を書かせるようにし，１時間の授業の中でどんなことを学んだのかを振り返り，学習内容を整理させる時間を設定していくようにする。

３　研究テーマとの関わり

本校の研究テーマ
「自ら考え，表現できる生徒の育成」
～言語活動を取り入れた授業の工夫を通して～

校内研究の主題との関連について述べ，仮説や視点から，本単元でどのような手立てを講じるかについて記述します。

研究テーマに迫るためには，基本的な知識理解を確かなものとし，自ら進んで考えてみようと思えるような魅力ある課題の提示や発問の吟味が必要であると考える。また，授業の中で，自らの考えをまとめたり，発表したりする場を意図的に設定していくことで，生徒自身の中で学習内容が整理されるにしたがって理解が確かなものになり，表現力を高めていくことができると考える。

そこで，視点１「自ら考えさせる工夫」として，実生活で生かせるような，魅力ある課題を提示する。また，いろいろな条件の下で一次関数を活用できるようにするために，深い思考を促すような指示や発問の吟味を図りたい。また，視点２「表現力を高める工夫」として，指導過程の中に意図的に表現する場（自らの考えをまとめたり，発表したりする場）を設定することで，研究テーマに迫りたい。

視点１：自ら考えさせる工夫…魅力ある課題の提示，深い思考を促すための指示や発問の吟味

視点２：表現力を高める工夫…言語活動の場の設定

4　単元目標

(1) 一次関数に関心を持ち，表，式，グラフを用いて考えることができる。
(2) 具体的な事象に，一次関数を見いだすことができる。
(3) 一次関数の関係を表，式，グラフを用いて表すことができる。
(4) 一次関数の意味や特徴，変化の割合やグラフの傾きの意味が理解できる。

5　単元の評価規準

数学への関心 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形など についての知識・理解
【一次関数の関係】 ・一次関数に関心を持ち，具体的な事象の中から一次関数として捉えられる二つの数量を見いだしたり，その関係を式で表したりしようとしている。	・具体的な事象の中にある２つの数量の関係について変化や対応の様子に着目して調べ，一次関数として捉えられる二つの数量を見いだすことができる。	・一次関数の関係を式で表すことができる。 ・一次関数の関係を表す式に数を代入し，対応する値を求めることができる。	・一次関数の意味を理解している。
【一次関数の特徴】 ・一次関数の特徴に関心を持ち，表，式グラフを用いて	・一次関数の特徴を，表，式グラフを相互に関連付ける	・一次関数の関係を表，式，グラフで表すことができる	・一次関数の特徴を理解している。

6　指導と評価の計画（本時19/20）

詳細は，Ｐ．２１　プラス２（評価方法例）参照！

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）			
		数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などの 知識・理解
1	1　「～は…の関数である」ことの意味とそれを用いて，事象を表現すること			◎具体的な事象の中にある２つの量の関数関係を，「～は…の	○関数の意味を理解している。 （学習プリント・小テスト）
１９（本時）	1　問題演習③	○事象の中にある一次関数を見いだし，表，式，グラフを用いたり，既習事項と関連付けたりして考えようとしている。 （ノート，観察）	◎一次関数を表す表，式，グラフから，必要な情報を読み取り問題解決に活用したことを説明することができる。 （発表，図や表，板書等）		
			グラフのよさに気付くことができる。 （発表，図や表，板書等）	（ノート，ワークシート）	

7　本時の指導

本時のねらいや評価は精選し１つか２つに絞る。「指導に当たって」では，校内研究との関連で示した手立てのうち，本時に関係のあるものや支援についてより具体的に記述します。

(1) 題材名「一次関数を利用した問題の解き方」

(2) 本時のねらい

①一次関数に関心を持ち，表，式，グラフや既習事項を用いて考えることができる。
【数学への関心・意欲・態度】

②問題の解き方や考え方について，表，式，グラフを活用して説明することができる。
【数学的な見方や考え方】

(3) 指導に当たって

導入では，問題を解くために必要となる既習事項の確認を行う。必要となる基本的事項を確認しておくことで，生徒は，復習事項を本時の学習のどこで活用すればよいかを意識しながら授業に取り組むようになるのではないかと考える。復習事項については時間をかけず，ポイントを確認する程度で，展開での時間確保に努めたい。また，取り扱う問題はできるだけ生徒が身近に感じられ，具体的にイメージしやすいものを工夫する。そうすることで，関心・意欲を持って，自ら問題の解決に取り組むとともに，多角的な見方で思考しようとするのではないかと思われる。しかし，抽象的な問題を解く力を付けることも必要であるので，具体的な問題から抽象的な問題へと段階的に移行していくことにも配慮したい。さらに，本時は考えを深めたり，広げたりさせるため，グループ活動において話し合う場面や発表する場面を設定する。話し合う場面では，宿題として考えてきた自分の解き方だけでなく，他の友達の考え方を聞くことで，多様な考えがあることに気付かせるとともに，合理的なよりよい解き方を思考・判断させる。発表させる場面では，発表用の原稿を作成し，思考内容を整理させたり，分かりやすく説明するために表やグラフ，式を活用させたりする。これらの学習活動により，数学的な表現力を身に付けさせたり，理解を深めたりすることができると考える。また，グループ内での話合いが活発に行われるよう，話合いの流れや話合いの観点が分かるワークシートを工夫したり，机間指導による支援を行ったりしていく。最後に，問題を解くためのポイントとなった事柄を自ら書かせ，大事な考え方や新たに気付いたことを確認させるとともに，全体でも確認する場面を設け，学習内容の理解を確かなものにさせたい。

(4) 準備物

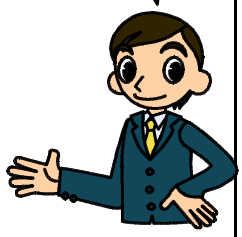
生徒：課題プリント

教師：ワークシート，説明用拡大図，方眼黒板，小テスト

(5) 指導過程　ー検証のポイントー

【「○」…教師の働きかけ　　「※」…指導上の留意点　　「・」…予想される生徒の反応】

段階	学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	形態	評価規準・準備物等
導入 ５ 分	**１　本時のめあてを知り，既習事項を振り返る。** ・一次方程式 ・連立方程式 ・グラフのかき方	**○「今日は，一次関数の応用問題の解き方について考えます。はじめに，必要となる既習事項について確認しましょう。」** ※本時の学習において必要となる一次方程式，連立方程式，グラフの書き方を復習するための小テストを行う。	個	・小テスト
展開 １ 15 分	**２　グループ内で話し合う。**	**○「それぞれが考えてきた解き方について，グループ内で伝え合い，考え方をまとめましょう。」** **【視点２】** 【問１】S君は，M社の携帯電話を買ってもらうことになり，数ある料金プランの中から，候補を２つに絞りました。候補となったプランの特徴は次の通りです。 ・プランA…基本料金1800円，１分の通話で30円かかる。※パケット通信料はどちらも同じとする。 ・プランB…基本料金3900円，１分の通話で10円かかる。 (1) S君の1か月の通話時間が100分のとき，どちらのプランが得になりますか。 (2) プランBが得になるのは，通話時間が何分を超えたときですか。表や式，グラフなどを用いて説明しなさい。 **【視点１】** ※通話料金は時間に比例するものと考えます。 ・プランAの１分ごとの料金を求めて行くと，１分ごとに，３０円ずつ料金が増えていくことが分かるので，１００分	グループ	【関心･意欲･態度】 ・事象の中にある一次関数を見いだし，表，式，グラフを用いたり，既習事項と関連付けたりして考えようとしている。 （ノート，観察） 《C生徒への手立て》 ・机間指導の際，問題文のンダーラインを引かせたり，友達の発表をメモし

		後には３０００円増えることになります。従ってプランＡで１００分間通話したときの料金は，基本料金の１８００円を加えて４８００円になります。 ※話合いの流れや話し合うべき観点を示したワークシートを配布し，話し合わせる。 ※多様な考えを比較検討し，グループとしてのよりよい解き方を導き出させるよう，机間指導において支援する。 ※話合いが進まないグループには，「始めにどうするか，次にどうするか」を考えてみるよう声がけし，説明の手順を考えさせるようにする。		たりするように声がけする。 ・理解の整理を促す発問や次に何をすればよいかのヒントを与えることによって，考え方に気付かせる。 ・ワークシート，説明用拡大図，方眼黒板　ポイントとなる部分にアンダーラインを引かせたり，友達の発表をメモしたりするよう声がけする。 ・ワークシート，説明用拡大図，方眼黒板
	３　グループ内で発表原稿や説明用の図やグラフの準備をする。	**○「解き方の確認が終わったグループは，発表原稿や説明用の図やグラフなど発表の準備をしましょう。」【視点２】** ※各グループを回り，考え方がまとまらないときに助言したり，ヒントカードを与えたりするなどの支援を図る。	グループ	
展開２ 23分	**４　問題の解き方や考え方について発表する。**	**○「では，発表会に移ります。今日は，３班まで発表を行います。１班は説明を始めてください。他の人は，自分の考え方と比較しながら共通点や相違点についてメモをとりながら聞きましょう。」【視点２】**	グループ	【見方や考え方】 ・一次関数を表す表，式，グラフから，必要な情報を読み取り，問題解決に活用したことを説明することができる。 （表や式，グラフ，板書等）
	５　発表についての質疑応答を行い，問題解答のポイントをまとめる。	**○「質問のある人は手を挙げてください。」** ・なぜ(1)では表を使ったのですか。 ・料金を表す式はどのようにしてつくったのですか。 ・グラフの交点はどのようにして求めたのですか。 ・グラフの交点は何を表しているのですか。 ※質問が出ない場合は，発表順の一番後の班に質問させる。 **○「この問題を解くためのポイントを考えてノートに書きましょう。」【視点１】** ＜ポイント例＞ ①月額使用料＝基本料金＋通話料金 ②通話時間をx，料金をyとして，yをxの式で表す。 ③グラフを描き交点の座標を求める。	個	指導過程に研究の仮説や視点，手立てなどを位置付けておくと，授業者も参観者も大事な点を意識することができます。 
	６　次のグループが発表する。	**○「では，次のグループは説明を始めてください。」** ※以下，同様の手順で３班まで発表活動を行う。		
まとめ ７分	**７　本時のまとめをする。**	**○「本時のめあてに対して，自分なりのまとめをノートに書いてみましょう。」** ※本時の学習全体で分かったことを，箇条書きするなど整理して書いてみるよう指示する。 ※まとめとして書いた内容を数名に発表させ，本時のまとめとする。	個 全体	

(6) 評価の観点と方法

評価項目	評価規準	努力を要する生徒（C）への支援の手立て	評価場面【方法】
数学への 関心・意欲・態度	事象の中にある一次関数を見いだし，表，式，グラフを用いたり，既習事項と関連付けたりして考えようとしている。	・机間指導の際，問題文のポイントとなる部分にアンダーラインを引かせたり，友達の発表をメモしたりするように声がけする。	・割り当てられた問題をグループで話し合う場面 【ノート，観察】
数学的な 見方や考え方	一次関数を表す表，式，グラフから，必要な情報を読み取り，問題解決に活用したことを説明することができる。	・理解の整理を促す発問や次に何をすればよいかのヒントを与えることによって，考え方に気付かせる。	・割り当てられた問題の解答を発表する場面 【表や式，グラフ，板書等】

習得したことを活用して
考えを示す場にもなります。

「めあて」と「まとめ」はしっかり書くことが大切です。

(7) 板書計画

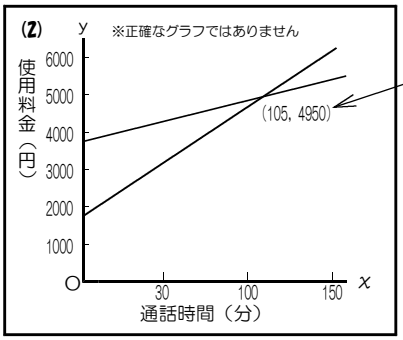
＜めあて＞

一次関数の応用問題の解き方について考えよう。

(1)

通話時間(分)	0	1	2	3	…	100
プランA料金	1800	1830	1860	1890	…	4800
プランB料金	3900	3910	3920	3930	…	4900

プランA：$y=30x+1800$……①
プランB：$y=10x+3900$……②



①，②を連立方程式とみて解く。

＜まとめ＞

問題から一次関数の関係にあるものを見付け，式や表，グラフで表し，問題を分析してみるとよい。

※生徒が発表のために用いる式や表，グラフなどの掲示に使う。

分かったことを「まとめ」として生徒自身に書かせることもあります。

研究の仮説や視点，手立てを分かりやすく指導過程に位置付けておくことで，授業者と参観者が意識してその場面を見取ることができます。その事実とノートやワークシート等の記述内容，意識調査などの結果から，研究の有効性を明らかにして行きます。

プラス２＊＊＊学習評価

指導と評価の一体化を図っていますか？

指導と評価の計画

【例】第５学年　小数のわり算

評価規準・・・
児童の具体の姿で示す

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
1	除数が小数である場合の除法の意味について考える。 ・問題場面を立式し，立式の理由を説明する。		○整数の除法の意味を拡張して小数の除法の意味を考えている。 （学習活動の観察，ノート記述の観察）		◎除数が小数である場合の除法の意味について理解している。 （ノート記述の分析）
2本時	除数が小数である場合の除法の計算の仕方について考える。 ・小数でわる計算の仕方について説明する。	○小数の除数の計算について，整数の計算などと関連付けて考えようとしている。 （学習活動の観察，ノート記述の観察）	◎小数の除法の計算の仕方を考えている。 （学習指導の観察，ノート記述の分析）		
3					

評価方法・・・
評価場面を明確にする

◎：全員の評価の機会とする観点
○：◎を補完する評価の機会とする観点

各時間のねらいに沿って
１～２観点に精選

評価方法の工夫や留意点

【例】ノート記述の分析による評価

事前：本時の評価規準として，「おおむね満足できる」状況の具体的な姿を想定するとともに，「努力を要する児童生徒」への支援の手立てを計画する。
事後：ノートにより，授業中の学習活動を見取ったり分析したりする。

【事前】
個人解決の場面を想定する

→

【授業中】
学習状況に応じて指導する

→

【授業終了時】
ノートを回収する

→

【事後】
学習状況と照らして評価する

座席表の活用

【例】小学校　国語科

【授業者・参観者】
実態把握における
活用

N．Y	I．T	K．O	S．E
【◎　○】 進んで自分の考えを発表できるようにさせたい。	【△　△】 友達の発表を集中して聞かせるようにさせたい。	【○　○】 登場人物の気持ちを根拠を明らかにして書かせたい。	【△　○】 場面の変化と登場人物の心情の関連に気付かせたい。

本時の指導において目指す姿

イニシャル
観点の評価

【書く能力　読む能力】

児童の様子から
３段階で記入

【授業者】
評価における
活用

	N．Y	I．T	K．O	S．E
事実と感想，意見などとを区別して書いている。	A	B	B	C
自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をしている。	B	B	A	B

評価規準

ワークシート

【例】中学校　音楽科

思考の流れや評価の
観点が見取れるように

おおむね満足できる状況
下線のいずれかについて書き，奏法と線で結び，音楽的な理由を書いている。

箏曲―音楽表現の創意工夫

1　箏の音色，旋律，旋律の反復や変化などの構成について気付いたことを書きましょう。
また，関係のありそうな奏法を線でむすびましょう。

・爪ではじいた音	【左手の奏法】
・日本の伝統的な感じの旋律	◇後押し
・音の高さが少し下がる	◇引き色
・ときどき音が同時に出る	【右手の奏法】
・音がつながりながら少し高くなる	◇かき爪
・同じパターンが繰り返される	◇割り爪

指導の工夫例
気付いたことを話し合わせ，学級全体で共有できるようにする。

2　箏曲を聴いたり奏法を試したりして感じたことと，その音楽的な理由を書きましょう。

引き色や後押しといったような独特の奏法によって，音の高さと余いんを微妙に変化させていることが分かり，そのことによって日本の音楽らしい雰囲気が感じられた。

自己評価シート

【例】中学校　特別活動

評価方法の工夫例
一連の活動の状況を把握できるようにする。

学校行事―言語活動の充実

学校行事カード（運動会）

年　　組　　番　　氏名

1　行事の目標

・運動に親しむとともに，規律ある集団行動をする。
・自分の役割を自覚し，自主的に活動して自分の責任を果たす。
・互いに協力して取り組み，学級やグループの絆を深める。

目標を箇条書きにして生徒に知らせる。
⇩
○関心・意欲を高める。
○自主的，自律的に取り組もうとする態度を育成する。

2　行事で大切なこと

意義に関する理解の状況を把握する。

3　自分の役割や係

4　自分の目標

5　振り返り

	内　　容	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない
①	自ら進んで取り組もうとした	A	B	C	D
②	自分の役割を果たすことができた	A	B	C	D
③	周りの人との絆を深めることができた	A	B	C	D
④	学んだことを今後の生活に生かそうと思う	A	B	C	D
⑤	自分の目標を達成できた	A	B	C	D

6　この行事で学んだことや感想

自由記述で記入させる。

どの程度の達成感を持ったかを把握する。

どのように実践したかを把握する。

学習指導のねらいを明確にし，児童生徒の学習状況を具体的に示すことで，指導に対する評価を確実に実施し，継続して工夫改善を図っていきましょう。

プラス３＊＊＊学習規律

いつも心の中にありますか？

～・・まず　あいさつからスタート・・～

あいさつ（はじめとおわり）

「注目　よろしくお願いします」「注目　これから１時間目の授業を始めます　礼」何も言わずに教師の礼に合わせて礼をするなど，いろいろな挨拶があります。挨拶は休み時間と授業時間の区別をつけ，「学習時間」であることの意識を確実に定着させるものです。

＊姿勢を正すこと　　教師を見ること　　頭はしっかりと下げること ⇨ **気持ちが存在する**

―― **教師の挨拶は，同時に行わないことによって，子どもの姿が見取れます** ――

話の聞き方

「聞く」ということ・・・・**自分を律すること**と**他人への思いやり**

今は，授業中だから
しっかり聞こう

〇〇さんが一生懸命に話を
しているから聞こう

＊相手の目を見て　　相手の声を心に受けとめて ⇨ **何を話しているのかを聞き取る**

発表の仕方

・挙手・・・姿勢を正してまっすぐに
　　「はい」は言わず，静かに
・話型・・・指名されたら「はい・・です。」
・口の形・・母音（あいうえお）を意識
・声の大きさや速さ・・相手に届くこと
＊言葉遣いは語尾まで丁寧なものにする。

話合い

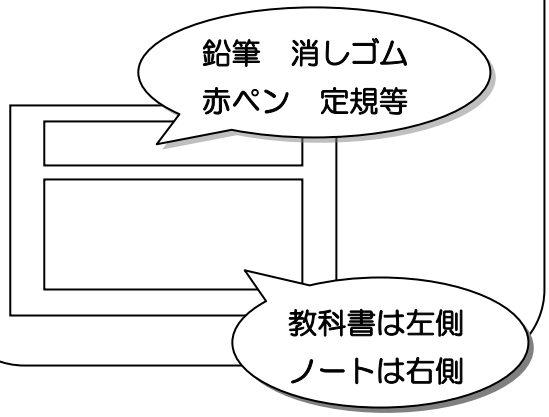
・　形態・・・ペア　　グループ　　全体
・　意識・・・共感　　類似点と相違点
＊一人一人が自分の考えを持つ
→ 考えを出し合う
→ 考えをまとめていく
→ 全員で共有する

書くこと

・姿勢を正してノートとの距離感を保つ
・文字は筆圧を適度に加えて丁寧に書く
・学習のポイントと自分の考えを記す
＊学習の足跡となるノート等は，後で見て分かりやすく参考になるものにする。

机上の整理

・必要なもののみを整然と置く
・授業の終了時には，次の時間の準備



教室内に存在する**音**は適切なものですか。
全員の**視線**が来ていますか。教師の「全体から個」「個から全体」を見渡すことの**繰返し**により，子どもの**「今の実態」**が見えてきます。

“ローマは一日にして成らず”―― 日々の積み重ねがあって身に付いていきます。
そうすることが，自然であるように習慣化していきましょう。

Ⅱ　みやぎとして・・・
宮城県の教育施策

学校教育の重点

家庭・地域と連携，創意と活力に満ちた学校

1 小・中・高等学校を通じた志教育の推進

2 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長

3 「学ぶ土台づくり」の推進

4 「防災教育」の推進

5 感性豊かでたくましい心をもつ子どもの育成と支援

6 健康な体づくりと体力・運動能力の向上

7 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

8 教員が学び続けるための体系的な研修の推進

9 開かれた学校づくりの推進

10 家庭・地域・学校が協働した教育活動の推進

11 伝統･文化の尊重と国際理解を育む教育・時代の要請に応えた教育の推進

学校改善支援プラン

学力向上に向けた３つの視点

教員の教科指導力の向上
- 魅力ある授業の創造
- 校内研修の充実

児童生徒の学習習慣の形成
- 学校と家庭の連携
- 授業と家庭学習の連動

教育環境基盤の充実
- 少人数指導の工夫
- 学校の特色を生かした取組
- 小中の連携

みやぎの教員に求められる資質能力

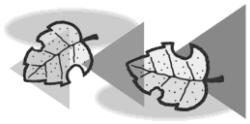
教員研修マスタープラン

学校の教育力を構成する実践力

①授業力
②生徒指導力
③子ども理解
④学校を支える力

実践力の基盤となる意欲・人間性等

⑤教育への情熱
⑥たくましく豊かな人間性
⑦自己研鑽力



参考文献

小学校学習指導要領解説　　文部科学省　　2008.8
中学校学習指導要領解説　　文部科学省　　2008.9
言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】　文部科学省　2011.10
言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】　文部科学省　2011.5
評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）国立教育政策研究所 2011.11
評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）国立教育政策研究所 2011.7
宮城県教育振興計画　　宮城県・宮城県教育委員会　　2010.3
平成 22 年度　全国学力・学習状況調査　宮城県検証改善委員会報告書　宮城県教育委員会　2011.1
平成２４年度学校教育の方針と重点　宮城県教育委員会　2012.3
宮城県学校改善支援プラン　　宮城県教育委員会　　2011.3
授業研究ハンドブック　　広島市教育センター　　2005.3
指導力の向上を図る校内研究の充実のために　　函館市教育委員会　　2006.3
校内研究の進め方ガイドブック　　岩手県総合教育センター　　2006　2007
授業を磨く教師　　長崎県教育委員会・長崎県校長会　　2007.3
校内研修ハンドブック　　徳島県総合教育センター　　2008.3
秋田式「当たり前」教師の育て方　　矢ノ浦　勝之　小学館　2010.9
AKITA　STANDARD　あきたのそこぢから　　秋田県総合教育センター　　2011.2
「ワークショップ型校内研修」で学校が変わる　学校を変える　村川　雅弘　教育開発研究所　2010
指導と評価　　図書文化　　2008.7